

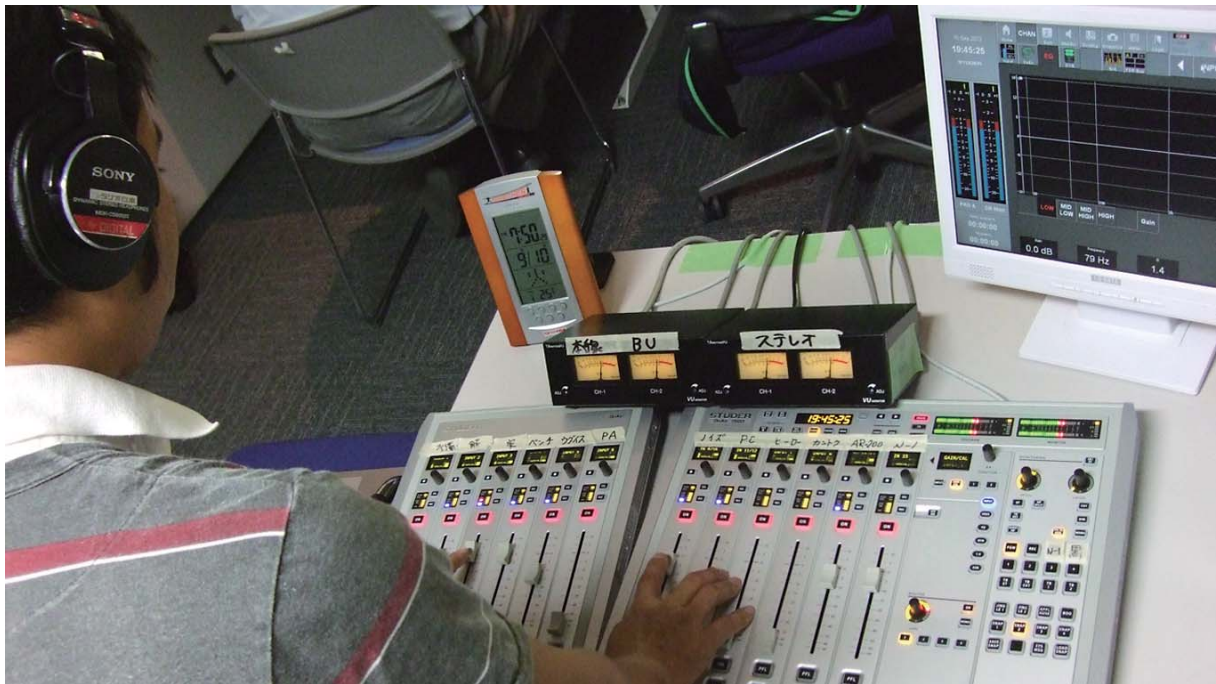
■ OnAir 1500 ユーザーレポート

株式会社アール・エフ・ラジオ日本 様

OnAir 1500 - 12



中継現場用音声卓として OnAir 1500 を導入



株式会社アール・エフ・ラジオ日本
技術局 技術部
國富 誉

はじめに

この度、ラジオ日本は、中継現場用音声卓として OnAir 1500-12Fader を導入しました。今まで中継現場用音声卓は、全て 12Fader のアナログ音声卓を使用してきました。ですが、現在のデジタル音声卓の普及にともない、熟考/検討した結果、中継現場用音声卓としてデジタル音声卓を選択することに辿り着きました。導入後、2013年9月10日に新潟で開催されたプロ野球公式戦の中継で初運用を行い、快適に中継を行うことができました。

選定理由

当社のスタジオには、STUDER製デジタルコン



ソール OnAir 3000 と OnAir 2500 を 2 台導入しています。信頼性が非常に高く、現場からも評価されている音声卓であると実感しております。「中継現場用音声卓も STUDER 製デジタルコンソールを導入したい」と前々から考えていましたが、なかなかサイズやコスト面で適切なラインナップが無く、従来どおりのアナログ音声卓を使用する日々を送っていました。そんな時、コンパクトでコストパフォーマンス性の高い OnAir 1500 が発売され、直観的に「これなら行けるかも！」と希望が湧きました。重複しますが、当社では中継現場はアナログ卓というのが常識でした。今回、デジタル卓を導入するには理由がはっきりとあります。それは音質改善と現場に持出す機材を減らすことです。野球の中継現場では、入力素材が多く、これまでサブ卓を持ち込み対応していました。デジタル卓は物理インプット数が比較的多く、全ての素材を入力でき、配線がすっきりするはずですし、フェーダーモジュールが薄くコンパクトな為、十分な作業スペースが確保でき、なおかつ心理的にもリラックスできるのではないかと考え、導入を決定しました。

初運用を終えて

初運用が新潟での野球中継でした。中継当日に合わせて、事前に操作、及び設定方法などを

STUDER スタッフの方にトレーニングして頂き、時間が許す限り自主的に OnAir 1500 をいじり倒しました。事前に準備した設定を保存した状態で中継現場に OnAir 1500 を持ち込んだおかげで、現場では仕込み時間に追われることはありませんでした。内部設定で入力素材のモノラル/ステレオの変更、出力レベルの可変等が容易にでき、柔軟にアレンジができる音声卓であると感じました。また、ディスプレイを接続すれば、EQ、COMP 等の設定状況が視覚的に確認できるのも安心です。SEL ボタンによるディスプレイ追従機能がないので、マウスで素材を選択するという操作をしなければなりませんでした。慣れるのにそれほど時間はかかりませんでした。もちろん、ディスプレイがなくても操作はできます。なにより設定画面が OnAir 3000 や 2500 と同じ事が操作を潤滑にしてくれました。初運用を終え、目的であった音質改善、持ち込み機材の省ボリューム化、機材設置の省スペース化が実現出来たと思っています。操作性も問題なく、OnAir 1500 を中継現場用音声卓として導入できたことを大変嬉しく思っております。また、当社としても技術面で大きな一歩となったことを実感しています。この度 OnAir 1500 を導入するに当たって、設定作業にご尽力いただいたスチューダーご担当者様、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。